

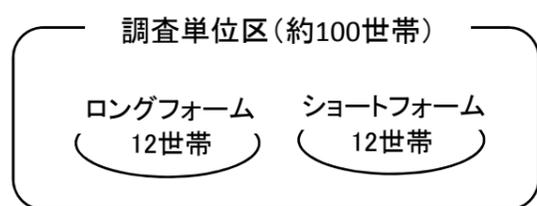
ロング・ショートフォーム方式の抽出方法における論点整理

(1) 調査単位区の割当

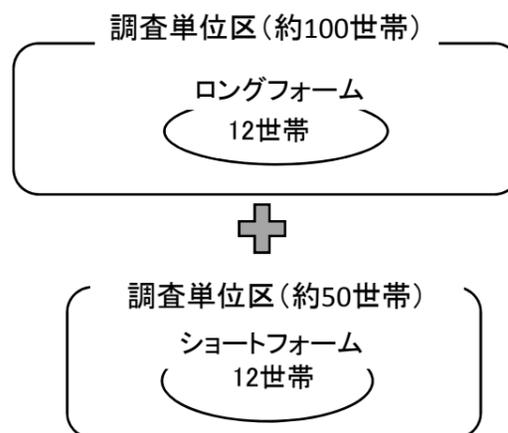
		メリット	デメリット
案1	両調査の調査世帯を同一の調査単位区から抽出する	<p>【調査員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査単位区世帯一覧を新たに作成する[*]必要がないため、調査員負担の増加を抑制できる。 <p>※調査単位区内に居住しているすべての世帯を訪問し、世帯主の氏名、就業状態などを質問する。</p>	<p>【結果精度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 案2、案3の場合と比べて標本誤差が大きい。 (⇒平成26年調査と比べると、ロングフォームのサンプルサイズを変更しなければロングフォーム(家計簿)の標本誤差は変わらない。世帯票、年収・貯蓄等調査票はショートフォームの追加により全体の標本誤差率は小さくなる。) <p>【調査員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの調査単位区にロングフォーム世帯とショートフォーム世帯が混在するため、調査票等の配り分けに注意が必要。 <p>【調査世帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査内容に差異があることによる不公平感が生じやすい。 (⇒調査世帯への謝礼に差をつけることにより、不公平感を解消。)
案2	従来の調査単位区に加え、世帯数が半数程度の規模の調査単位区を新たに追加し、従来の単位区からロングフォーム世帯、追加した単位区からショートフォーム世帯を選定する	<p>【結果精度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 案1と比べて標本誤差が小さい。 <p>【調査員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ロングフォーム世帯とショートフォーム世帯が別の調査単位区になるため、調査票等の配り分けが容易。 <p>【調査世帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査内容に差異があることによる不公平感が生じにくい。 	<p>【調査員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加分の調査単位区世帯一覧を新たに作成する必要があるため、調査員の負担が増加する。 (ただし、案3と比べると負担の増加は少ない。) <p>【市町村】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの調査単位区を別の調査員が担当した場合、調査員間の事務負担に差が生じる。 (⇒調査員報酬に差をつけることにより対応。)
案3	従来の調査単位区に加え、世帯数が同規模の調査単位区を新たに追加し、二つの調査単位区からそれぞれロングフォーム世帯とショートフォーム世帯を選定する	<p>【結果精度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 案1と比べて標本誤差が小さい。 	<p>【調査員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加分の調査単位区世帯一覧を新たに作成する必要があるため、調査員の負担が増加する。 <p>【調査員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの調査単位区にロングフォーム世帯とショートフォーム世帯が混在するため、調査票等の配り分けに注意が必要。 <p>【調査世帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査内容に差異があることによる不公平感が生じやすい。 (⇒調査世帯への謝礼に差をつけることにより、不公平感を解消。)

イメージ図(※世帯数は仮)

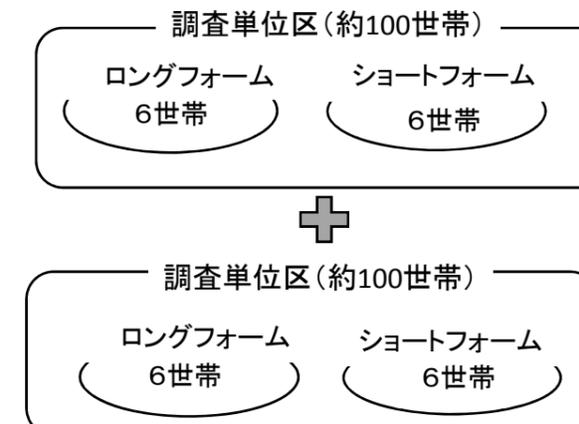
【案1】



【案2】



【案3】



※案2及び案3の調査単位区は、近隣の調査単位区とする。

